

経営比較分析表（令和6年度決算）

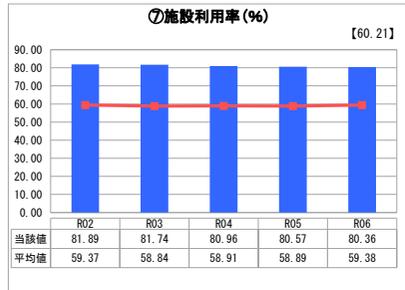
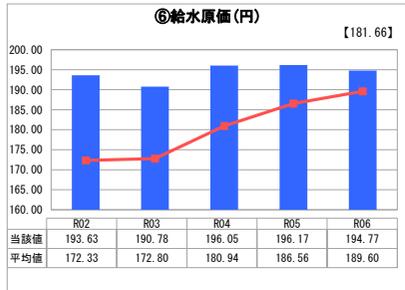
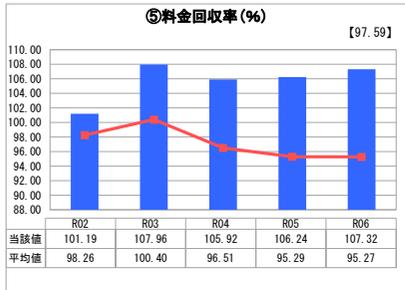
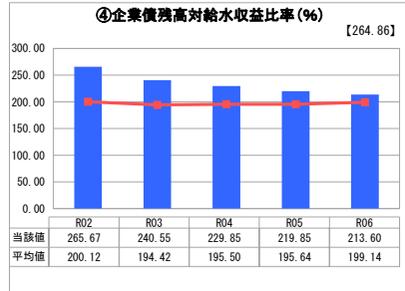
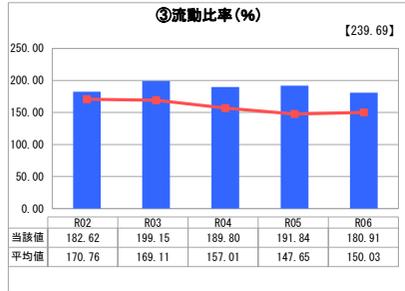
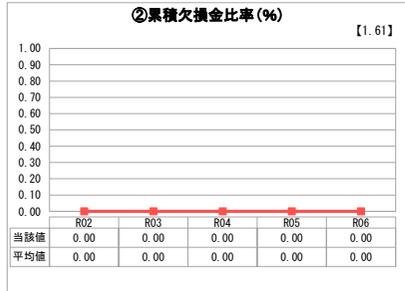
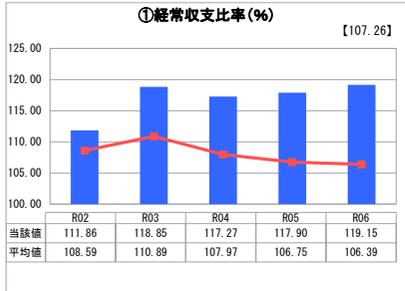
宮城県 仙台市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	政令市等	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客産料金(円)	
-	71.52	99.74	3,553	

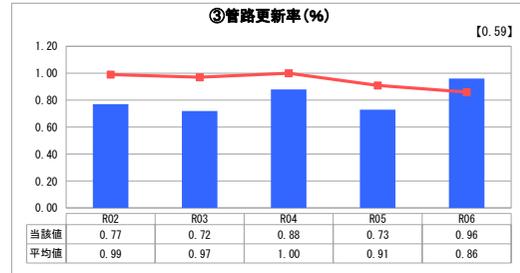
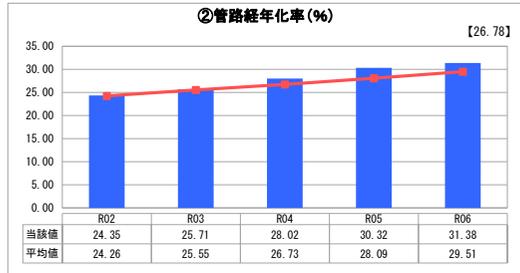
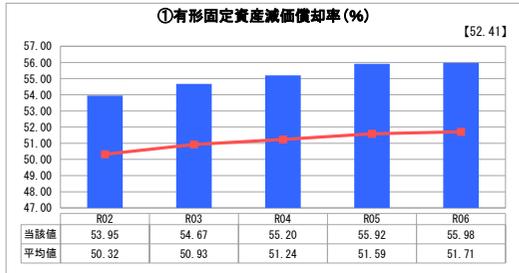
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,064,142	786.35	1,353.27
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,060,363	360.87	2,938.35

グラフ例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①有収水量が減少傾向であるものの、世帯数の増に伴う基本料金の増により、給水収益は微増となる一方、修繕費など経費や雑支出等の減により費用が抑えられ、前年度より上昇しました。
 現状では単年度収支で黒字を維持できていますが、給水人口が減少局面を迎えることで、有収水量の減少傾向はさらに強まり、給水収益が減少するとともに、労務費単価の高騰による人件費や経費の増、管路更新等の進捗に伴う減価償却費の増が見込まれ、収支への影響が懸念されます。
 ②該当なし
 ③100%を大きく上回る水準を維持しており、一年以内の支払いに対して十分な現金等を保有しています。
 ④比較的近年まで拡張策を実施していたため、企業債残高が多いことから平均値より高い水準となっておりますが、コロナ禍以降の給水収益は微増で推移する一方、企業債の償還が進んでいることにより、比率は減少してきています。今後は、更新需要に伴う建設改良事業の増により企業債の借入増が見込まれます。
 ⑤コロナ禍以降、有収水量が減少傾向であるものの、世帯数の増に伴う基本料金の増により、給水収益は微増で推移していることで、100%以上を維持できています。
 ⑥給水人口密度が低いことに加え、宮城県仙南・仙塩広域水道からの受水に係る費用が高いことなどにより、平均値より高い水準となっておりますが、同広域水道の料金改定に伴い前年度より減少しました。
 ⑦自己水源の浄水場の設備更新等に伴い、宮城県仙南・仙塩広域水道の受水を増やしているため、施設利用率が微減で推移していますが、適切な施設規模に取り組んできたことにより、平均値より高い水準となっております。
 ⑧令和3年度は地震に伴う漏水等により一時的に低い状況となりましたが、漏水防止の取組みや漏水履歴も踏まえた計画的な管路更新を進めていることにより、令和4年度以降は平均値より高い水準となっております。

2. 老朽化の状況について

①償却資産の大半を配水管等の構築物が占めており、管路の経年化などに伴い上昇傾向にあり、平均値を上回っていますが、各種施設の適切なメンテナンスによる機能保持に努めています。
 ②平均値より僅かに高い水準となっております。近年は上昇傾向にあることから、計画的かつ効率的な更新に取り組む必要があります。
 ③平均値より高い水準となっておりますが、管路経年率が上昇傾向にあることから、引き続き基本計画（令和2年度～令和11年度）に基づき、段階的な管路更新のペースアップに取り組んでまいります。

全体総括

経営の健全性・効率性につきましては、コロナ禍以降、有収水量が減少傾向であるものの、給水収益は微増で推移していることや、企業債の償還が進んでいることなどにより、各比率は平均を上回る水準を維持しています。が、今後は、給水人口が減少局面を迎えることで、有収水量の減少傾向はさらに強まり、給水収益が減少していくとともに、昨今の労務費単価の高騰による人件費や経費の増加に加え、管路更新等の進捗に伴って減価償却費の増加傾向が続くことから、経営状況は厳しい局面を迎えます。引き続き水需要に合わせた施設の再構築を進めていくとともに、アセットマネジメントによるライフサイクルコストの縮減に取り組み、持続可能な経営を維持していく必要があります。